

光市都市再生推進協議会 第7回会議 議事録

日時：平成31年3月14日（木）15:00～15:50

会場：光市役所3階 大会議室1・2号

【出席者】

委員：10人（代理出席者1人を含む。欠席3人）

オブザーバー：2人

事務局：6人

【内容】

開会

1 市長あいさつ

皆様こんにちは。年度末の大変お忙しいところ、お集まりいただき、本当に感謝する。

また、平素から本市の行政に多大なご支援をいただき、心から御礼申し上げたい。

さて、一昨年の8月に第一回の会合をした時に、私が、行政に忖度をするのではなく、皆様方のそれぞれの知見から、それぞれのご意見を賜りたいとお願いをした。今まで6回の会議があったが、それぞれの会議の内容を私も読ませていただいたが、さすがに皆様方のご意見で、本当に良い最終案ができたと非常に満足するとともに、皆様方に御礼を申し上げたいと思っている。

皆様ご存知の「種の起源」で知られるダーウィンが残した有名な言葉に、「唯一残ることができるものは、変化に対応したものである。」という言葉がある。確かに優秀なものでも残れない、変化に対応していく、この能力こそが、唯一残ることができる。都市も同じだと思っている。私たちが今まで経験したことのない状況が、次から次へと起こっていくわけであるが、その変化に対応していく、それでなければ、私たちの都市は残れない。この立地適正化計画も、まさに、この変化に適応しようという一つの計画である。今からこの最終案を皆様方に確認いただいて、それから次のステップへ、最終的には居住の誘導といった最終のステップに、着実に一歩ずつ進んでいきたいと思っている。

皆様方におかれては、今後ともそういう思いを私どもが持っているということをご確認いただき、また、ご支援とご指導をいただきたいと思っているところである。

鶴先生には会長として、大変感謝する。また、委員の皆様方には心から御礼を申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

2 会長あいさつ

皆さんこんにちは。

今、市長からお話があったように、足かけ3年となり、今回第7回の会議を迎えることができた。非常に大変だったことも含めて、よかったと思っている。

光市の平成24年策定の都市計画マスタープランには、「多核連携によるコンパクトな都市」を目指すと言われており、それを踏まえながら今回の都市再生特別措置法による立地適正化計画の策定に挑んだということで、そういう意味では国が言っている、又は法律が言っている実現策の1つ、都市機能誘導区域の指定までなんとかこぎつけたことに対し、非常によかったと思っている。こういった実現手段は、合意形成のうえで、行政計画として創り上げていくということは並大抵の努力ではなく、大変な前進であると思っている。

これから、居住誘導区域というさらに合意形成が非常に大変な1つのハードルとなるような区域設定をしていかななくてはならないということも控えており、そうそう安心はしてられないが、ぜひ引き続き頑張っていきたいと思っている。

そしてもう1つ、この間、光駅のシンポジウムをはじめ、市民の皆さんには今回の計画策定については、地域啓発も含めてPRできたのではないかとと思っている。ある意味もう後ずさりはずみで、これをどんどん推進していかなければならないという旗印になったとも思っており、ぜひ行政にもこの計画を実践していただきたい。

最後のようなことを言っているが、まだまだ続いていくので頑張っていきたいと思っている。どうぞよろしく願います。

3 議事

(1) 光市立地適正化計画（案）について

事務局から資料に沿って議題説明ののち、質疑応答等

● 議長

事務局が目標値の説明をしたが、少し補足させていただく。

今回の都市再生特別措置法による都市機能誘導区域を2地区指定し、この都市機能誘導区域に各種の都市機能を誘致し、維持することでJR光駅の利用者数と路線バスの利用者数を維持することを目標値に掲げているところである。

ただの現状維持ではないかというように見えるが、相対的に人口は減少するため利用率を上げないと、この数字にはならない。では、利用率を何%から何%へ上げないといけないうのかというと、先ほど事務局が説明したとおりで、例えばJR光駅の場合は、現状7.9%の利用率を10%に上げるということであるので、2.1ポイント利用率を上げないといけない。2.1ポイント上げるには、事務局に計算させると、1日約100人、乗車人員を増やさなければならない。都市機能のあるエリアに集積することによって、あまり無理せずに100人程度増えるだろうということを目標値にしているということである。

同様に路線バスの場合も、現状維持の数字を書いているが、利用率を上げないとこの数字にはならない。同様に事務局の計算によると、1日の路線バスの乗車人員を148人増やさないと1ポイント増にならない。これは意外と大変なことである。

鉄道はなんとなくいけそうな気がするが、バスを1日148人、240日間増やすということは、路線バスを使うということを前提で色んな施策を考えていかなければならないということになる。

もう1つ、最後に説明があった評価指標の、平成41年に公共交通網整備の満足度や交通結節機能の満足度を目標値にのせるためには、こういったところを努力していかないと、市民の満足度は上がってこないということになる。ここが、この計画のポイントと思っただけであればよいと思う。

● 委員

これから高齢者人口が増加し、それに伴い免許証の返納者がさらに出てくると思うが、そのあたりは見込まれているのか。路線バスの利用者がかなり増えるのではないかと。

● 事務局

数字として掴むのが大変難しいこともあり、考慮していない。

そういった方が、公共交通を利用するといった選択をすれば、公共交通の利用も上がってくるのではないかとこの考えを持っているが、数字としては掴みようがないため、ご了承いただきたい。

● 委員

交流人口をこれから増やしていこうとしているが、目標値が少し控えめではないかと感じた。

● 事務局

光駅は別で基本構想の策定を進めてきたが、光駅と光市の宝である虹ヶ浜海岸がとても近いということで色々ご意見をいただき、駅と海岸の特徴を活かしたまちづくりを進めていこうというところで構想のとりまとめをしている。

そのようなところで、いわゆる交流人口、観光目的で、公共交通で、という人が増えれば、そのあたりの数字も増えてくる。

控えめということであるが、このあたりの目標を定めてまいりたいと考えている。

● 会長

光駅の基本構想も概ねとりまとめが終わるような状況で、光駅の再生が平成41年の目標までには完成するとすれば、かなりJRの利用者も期待できるし、当然交通結節の機

能が向上するので、バスでの乗り換えもよくなり、うまくいけばバスの乗車率も上ってこようかと思う。リーディングプロジェクトとして、光駅の再生は、この立地適正化計画の中で非常に大きな、重要な位置付けになっていると私は思っている。今後、光駅の基本計画が新年度進むと聞いているので、是非そのあたりも踏まえて、駅の機能等も検討していただきたい。

● 委員

前回会議で要望した、高齢者の暮らしのイメージの掲載や、満足度をはかる指標の導入していただき、非常に血の通った、よい内容になった。

現在、光市5万人の中で高齢者が約3割いるが、全国で高齢者の交通事故が多発している。公共交通機関を強化し、利用することで事故のリスクがなくなり、色々な所に通えるようになったら、利用率も上がると思っている。

免許返納にあたり、普段の生活の行き来ができなくなることや、身分証がなくなることやを心配されている方が多い。縦割りではなく、各関係機関と手を組みながら進めることも1つの手と感じている。

たたき台として先進事例をお示しいただければありがたい。

● 事務局

運転免許証の返納については、県警の公安委員会や、市役所にも交通安全の部署があるため、どこまでできるかはわからないが、例えば公共交通を利用するにあたっての優遇策などが他市でもあるのではないかと思うので、他部局ともしっかりと連携しながら進めてまいりたいと考えている。

なお、身分証明証については、マイナンバー制度が導入され、希望者だけであるがマイナンバーカードを発行すれば法的な身分証明証になるため、その告知も、部署が異なるが、市としては実施しており、一緒にやっていかなければと考えている。

先進事例については、機会があれば調べてみたい。

● 委員

4番目の目標値の人口密度に関して、2020年度を目途に検討する居住誘導区域等とあわせて設定を検討するとあるが、まちなかの人口密度とは、どのエリアをもって算定するのか。また、その人口密度の目標値をいつ頃までに決めるのか。

● 事務局

策定スケジュールを述べると、本日の協議会を踏まえ、この3月をもって計画策定と考えており、新年度引き続き居住誘導区域の検討作業を、平成でいえば平成31年度、32年度のもう2年をかけて居住の誘導に関して検討してまいろうとしているので、この4番目の

まちなかの人口密度に関する目標値に関しても、もう2年をかけて検討するということをご理解をいただきたい。

まちなかの定義、どのエリアに対する人口密度を目標とするのかといったようなことも、当然4月以降、次のステップでと考えているが、先進事例などを見ると、居住誘導区域を定めるエリア内での人口密度といった指標が多いように感じているが、そのあたりもしっかり検討してまいりたいと考えている。

● 会長

今の質問に関して、本編の2ページを開いていただきたい。

国土交通省のパンフレットの絵が左下に載っているが、今回の光市立地適正化計画は、この絵柄の中の赤い拠点の部分までを決めたところである。今後2年をかけて青のラインを決めていくと事務局から説明があった。まちなかの人口密度といわれるのは、この青のエリアを含めた全体の人口密度をこれぐらいに設定すればいいのかということも2年かけて議論することになると思われる。

もちろん、赤色部は都市機能誘導区域であるため、少し青色のところよりは密度が高くなる可能性があるが、青色部の全体の平均人口密度をどれくらい維持していけばいいかということも明確にするため議論していくことになると思われる。そのため、まずは青色部のラインを決めることが非常に重要となる。

● オブザーバー

中身については、非常にまとまったものになっていると思う。

最後の目標値で1点、現在、リーディングプロジェクトで光駅前の再生計画を作られていると思う。先にも意見があったが、確かに光駅の利用者数を4,800人以上とするだけだと、少し心もとないと感じている。会長が言われたように人口が減っていく中で現状維持は非常に難しいし、全国で同じような事例があることも重々承知しているが、今後、居住誘導区域をつくるまでには、再生計画の目標や事業などがある程度分かっていたら、目標値を少し上ぶれで見直してもいいのではないかなと思う。

● 事務局

もう2年をかけて居住の誘導の方を検討するため、この段階で手続きとしては計画の改定という手続きを想定しており、目標値の修正も不可能ではないと考えている。

● オブザーバー

タイミングとしては、そこがよいと思う。

● 会長

駅の基本構想にも私は関わっているが、かなり意欲的な構想を皆さんで意見を出し合っ
てまとめていた。当然、駅の機能や利便性の強化だけにとどまらない機能を誘導するとい
うことに基本構想ではなっているし、周辺も含めて魅力を高めるという内容になっている
ので、期待はできると思う。ただ、これから基本計画を策定していく中で、具体的なこと
を考えていくうえで、どこまでリアルな数字が書き込めるかというところで、ここは事務
局の手腕にかかっているところである。ぜひ、そのまま魅力を魅力として、魅力的な数字
になるように頑張っていたいただきたいと思います。

● 会長

それでは、本日の議題は以上で、大きな修正はないと私は理解している。この事務局の
示した光市立地適正化計画（案）について、ご承認いただいたということで理解してよろ
しいか。

※一同、承認

それでは都市機能誘導区域までをまとめた光市立地適正化計画（案）を、この協議会と
しては承認したということにさせていただきます。

4 その他

事務局から、今後の取組みスケジュールについてのお知らせと、委員の変更等の希望が
ある場合の連絡のお願い

● 委員

お願いがある。この計画案については都市の骨格というものがイメージとしてできてき
た、大変すばらしい計画であると思う。ただし、これから都市づくりというものは、1つ
のどういう都市にするかという「特色」が必要だと思っている。骨格ができて都市ができ
ても、まちの特色がないと色々な人も集まってくれないし、色々な投資もないのではない
と思う。その点について、これからのステップに入ってくるのだと思うが、ぜひそのあた
りもご議論いただきたいと思う。

● 事務局

私どもは、この計画と、拠点である光駅前の周辺整備という大きな事業を担当している。

この計画の中で、あるいは関連する事業の中でこういったことができるのかわからない
が、しっかりご意見を受け止めながら進めてまいりたい。

特に光駅のほうでは、ハードだけでなくソフトもといったご意見も多くいただいたので、
夢が広がる一方で、行政としての地に足のついた行政計画を作っていかななくてはなら
ないと考えており、皆様としっかり議論しながら取り組んでまいりたいと考えている。

● 会長

重要な指摘だと思う。

どうしても手段の議論ばかりになって理念を忘れがちになるので。手段というものは非常に大変で法律用語が多く出てきて、それに没頭してしまうのはよいのだが、いつの間にか理念を忘れていくことがある。崇高なものを置きさってしまうことなどがあるので、常にフィードバックしながら、何のためにこの手段を適用しようとしているのかというところに立ち戻って考えることが大切であるということだと思う。

● 建設部長あいさつ

この2年間、本当に熱心なご議論をいただき、感謝する。

本日の会議をもって、都市機能誘導区域などを定める計画を策定させていただくが、居住の誘導に関する検討を引き続き行っていく。

皆さまには、次年度以降も、本会議を通じてご支援をお願いさせていただくことになるが、引き続き、お力添えのほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。

誠にありがとうございました。

閉会